

独法土研

2002.9.12

第14号 9月

独立行政法人

土木研究所

茨城県つくば市南原1番地6
TEL: 0298-79-6700

平成14年度土木研究所防災訓練

9月2日(月)に防災訓練および第2回防災会議が実施されました。この防災訓練は、指定公共機関として災害対策基本法や土木研究所防災業務計画などにに基づき、その実施が義務付けられているものです。一方、防災会議は所の所掌する防災業務の円滑な実施を図ることを目的に設置され、防災業務計画の改訂などに関する重要事項の審議を行います。

訓練は、午前7:00に東京湾北部を震源とする直下型地震が発生し、東京都心は震度7、つくば市と新潟県新井市で震度6弱の揺れを観測したという想定のもと行われました。今回の訓練の主な内容は、①情報伝達訓練、②参集訓練、③停電時を想定した非常用電源の稼働、④災害対策本部の設置・運営訓練の4項目です。

情報伝達訓練は、全職員を対象に災害連絡網(電話連絡)に従い地震発生による職員の参集を呼びかけました。参集訓練は、訓練参加者が土木研究所に参集した時刻、被災状況等を参集者名簿に記入することで職員やその家族の安否等について確認を行いました。また、停電時を想定した災害対策本部の運営に伴う電源の確保に関し、土木研究所本館西棟の電源を落として、今年度新設した予備発電設備を稼働させ、支障なくその性能を十分に発揮できることを確認しました。対策本部設置運営訓練は、理事長を本部長として本部班、総務班、技術班を設け、各班の係からは災害時の報告と、技術班からは「即時的な地震情報・災害情報の流れの現状」と題した話題提供が行われました。



新設した予備発電設備

防災訓練の後には引き続き第2回防災会議が開催され、13年度に策定された防災業務計画の検討と新たに作成する地震時初動マニュアル(案)の審議が行われました。

職員の皆様には毎年行われる防災訓練を通じ、各自が行うべき役割を再認識し、災害時には適切な対応が図られるように努めて下さい。

(研究企画課)

第14号もくじ

| | | | |
|---------------|---|------|---|
| 防災訓練 | 1 | 職場紹介 | 5 |
| 平成15年度概算要求の概要 | 2 | お知らせ | 6 |
| ちびっ子博士施設見学 | 3 | | |
| マイ・コラム | 4 | | |

平成15年度概算要求の概要

独立行政法人土木研究所の平成15年度予算概算要求については、8月7日の閣議了解で示された基本的な方針を踏まえつつ、運営費交付金については中期計画の運営費交付金の算定ルールに基づき、また、施設整備費補助金については中期計画の施設及び設備に関する計画に基づいて、下記のとおり要求を行いました。

○概算要求の概要

(単位:千円)

| 区 分 | 前年度 予算額 a | 15年度 要求額 b | 対前年度 比較増△減額 c=b-a | 伸 率 d=b/a | 備 考 |
|-----------|-----------------|------------------|-------------------------|--------------|------------------|
| ◎一般会計 | 2,354,070 | 2,284,227 | △ 69,843 | 0.970 | |
| ○運営費交付金 | 2,228,657 | 2,138,797 | △ 89,860 | 0.960 | |
| ・業務経費 | 485,915 | 485,915 | 0 | 1.000 | |
| ・一般管理費 | 275,602 | 275,602 | 0 | 1.000 | |
| ・人件費 | 1,467,140 | 1,377,280 | △ 89,860 | 0.939 | |
| ○施設整備費補助金 | 125,413 | 145,430 | 20,017 | 1.160 | 公共投資重点化 措置要望額 |
| ◎道路整備特別会計 | 1,500,742 | 1,483,312 | △ 17,430 | 0.988 | |
| ○運営費交付金 | 1,308,742 | 1,291,312 | △ 17,430 | 0.987 | |
| ・業務経費 | 1,086,490 | 1,086,490 | 0 | 1.000 | |
| ・一般管理費 | 31,425 | 31,454 | 29 | 1.001 | |
| ・人件費 | 190,827 | 173,368 | △ 17,459 | 0.909 | |
| ○施設整備費補助金 | 192,000 | 192,000 | 0 | 1.000 | |
| ◎治水特別会計 | 1,517,455 | 1,484,402 | △ 33,053 | 0.978 | |
| ○運営費交付金 | 1,397,455 | 1,364,402 | △ 33,053 | 0.976 | |
| ・業務経費 | 971,841 | 971,841 | 0 | 1.000 | |
| ・一般管理費 | 20,370 | 20,332 | △ 38 | 0.998 | |
| ・人件費 | 405,244 | 372,229 | △ 33,015 | 0.919 | |
| ○施設整備費補助金 | 120,000 | 120,000 | 0 | 1.000 | |
| ◎合 計 | 5,372,267 | 5,251,941 | △ 120,326 | 0.978 | |
| ○運営費交付金 | 4,934,854 | 4,794,511 | △ 140,343 | 0.972 | |
| ・業務経費 | 2,544,246 | 2,544,246 | 0 | 1.000 | |
| ・一般管理費 | 327,397 | 327,388 | △ 9 | 1.000 | |
| ・人件費 | 2,063,211 | 1,922,877 | △ 140,334 | 0.932 | |
| ○施設整備費補助金 | 437,413 | 457,430 | 20,017 | 1.046 | |

○施設整備費補助金の内訳

【一般会計】

| | |
|----------------|-----------|
| ・流速計検定施設改修 | 70,600 千円 |
| ・土質共同実験棟実験建屋改修 | 54,813 千円 |
| ・浸透実験棟実験建屋改修 | 20,017 千円 |

【道路整備特別会計】

| | |
|-------------|------------|
| ・舗装走行実験場の改修 | 162,000 千円 |
| ・高圧電気配線改修 | 30,000 千円 |

【治水特別会計】

| | |
|-------------|-----------|
| ・ダム耐震実験施設改修 | 39,000 千円 |
| ・底泥試料等分析装置 | 40,000 千円 |
| ・伏流水実験施設改修 | 41,000 千円 |

(会計課・研究企画課)

“ちびっ子博士”が研究施設を見学



ダム水理実験のパネル説明

8月6日、つくば市が主催する「つくばちびっ子博士」事業の一環として当所の施設公開を国土技術政策総合研究所と合同で開催しました。

この催しは、21世紀を担う子供達に、多くの研究機関を抱えるつくば市の科学技術を体験してもらおうと行われているもので、当所においては、ダム水理実験施設と土石流再現装置を公開し、41名の子供達が見学に訪れました。

ダム水理実験施設においては、ダム水理チームの職員からダム貯水池の役割やダムの放流設備の仕組みについての説明があり、子供達はダムの放流装置の模型から勢いよく流れ出る水を興味深く見学していました。

また、土石流再現装置の公開では、火山・土石流チームの職員により装置を使った砂防ダムの役割についての説明や、写真パネルによる過去に起きた土石流の被害状況の説明がなされました。

当日は最高気温が35度と猛暑の中での開催となり、公開施設内はうだるような暑さとなりましたが、子供達や保護者の方からは、数多く質問を受けるなど熱心に見学していただき、盛況のうちに終了することができました。ご協力いただいた両チームの方々、大変お疲れさまでした。



土石流発生メカニズムの体験

(総務課)

マイ・コラム (第3回)

「別分野との交流を深め、教養も高めよう」

客員研究員 高崎哲郎

私が土木技術者や土木技術界にかかわりを持ち、技術者の評伝やノンフィクションを書くようになって、10年以上が過ぎた。この間、私は河川・湖沼やダム関係の土木技術者や研究者（河川工学者）に会う機会が多かった。河川史を研究している歴史学者や歴史愛好家にも随分会って来た。国土交通省の現地事務所の案内で現場にもたびたび出掛けた。人里離れた山間地をはじめ大河や湖の堤防上などでブリーフィングを受けた回数も数え切れないほどである。現場に足を運ばずに、原稿を書いたり、問題を論じたりすることは、私には出来ないし、それは職業倫理に反するとすら思っている。

さて、本論に入ろう。国土交通省などの土木技術者に現地で説明を聞いていて、いつも気になることがある。河川やダムに関する土木技術的な説明は出来てあたりまえだから論じないとして（ただ説明が明快かどうかは問題点として残るが）、彼らはなぜ地域の歴史や文化それに民俗慣習なども説明に加えないのだろうか。それらは、土木工学とは縁がないから関心を持つ必要がないのだろうか。一か所の在勤年限が2年間程度だから、勉強している暇がないのだろうか。多分、すべて否である。

あえて聞きたい。本当に、土木工学や土木の現場を愛しているのか、と。井の中の蛙になっていないか、と。もし愛しているのなら、土木工学だけの範疇だけで満足するはずがない。

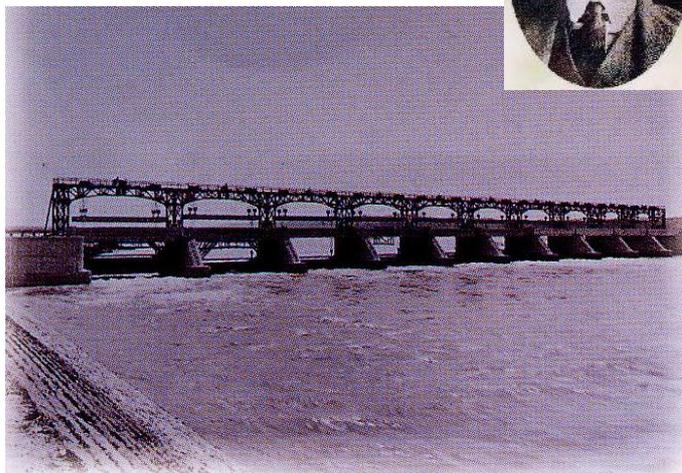
そこで提案しよう。別の分野の優れた人達と交流をどんどん深めてほしい。理工科系よりも文科系や芸術系の人達と交流を深めてはどうだろう。また多くの本を読み（出来れば歴史図書）、さまざまなジャンルの音楽を聴き、時には講演会にも足を運んでみる。

写真右 宮本武之輔

私の敬愛する土木技術者・宮本武之輔は東京帝国大学で大学生相手に講義をする際、助言したそうである。

「工学の知識を吸収しただけでは知識人ではないし、実社会に出ても役に立たない。様々な学問を貪欲に学ぶのだ。若いうちに学んで鍛えるのだ！」

（拙書『評伝、工人・宮本武之輔の生涯』ダイヤモンド社、参考）。(了)。



宮本設計・施工の大河津分水可動堰（今なお現役）

職 場 紹 介

会 計 課

<約1年半が経過して>

独立行政法人土木研究所が昨年の平成13年4月1日に設立して、今、会計課内では、「なんとかかんとか、やっと約1年半が経過した」、「やっとワンサイクルが終わった」、という声各担当から上がって、ホッとしているところです。

というのも、独立行政法人は、企業会計原則が導入され、財務諸表を作成（6月末までに国土交通大臣に提出）しなければならず、これが承認（評価委員会の意見をきいて、国土交通大臣が承認）されて、実質やっと1年の仕事が終わる（1年=15月？）と言えるからです。

ちょっとここで独立行政法人になった会計課の仕事の中身などを簡単に紹介しますと、

<会計課の仕事>

会計課は、今更言うまでもありませんが、予算→契約→管財→出納→決算と、主にお金に関する仕事をしています。

<慣れない仕事>

独立行政法人は、新しく企業会計原則が導入され、発生主義という、今までの国の会計の処理方法とは全く違った考え方で、処理しなければなりません。また、消費税の申告や、ペイオフ解禁による資金運用など、いろいろ新しい仕事が目白押しでした。

<監査と検査>

独立行政法人は、会計検査院の検査のほか、会計監査人による監査、監事による監査など、昨年から今年にかけて、監査と検査を非常にたくさん受けなければなりませんでした。

これは一重に、独立行政法人の設立趣旨の一つであります効率性・透明性を備えた法人を目指そうとするものでありまして、これからもご協力の程を。

<楽しい仲間たち>

何かと忙しい会計課ですが、仕事だけでなく、月に一回は必ず、一同を会しての懇親会を心がけ、ストレス解消を図りながら、課員17名一丸となってがんばっています。



懇親会会場にて

ダム構造物チーム

ダム構造物チームでは、主にダムの調査、設計、施工、管理の合理化・高度化を目的とした試験・数値解析等を用いて総合的な研究を行っております。主たる研究分野としては、（1）ダムの基礎岩盤強度、透水性等に関する研究、（2）ダム堤体の新材料、新施工法に関する研究、（3）ダムの耐震設計法に関する研究が上げられます。この他に、既存ダムの再開発技術の開発や、ダムの現場の抱える個別の課題を解決するための受託

業務等を行っています。

また、これらの研究の成果を全国で実施されているダム事業に普及させていくため、現場での技術指導も行っています。ダムの現場では、それぞれ特色ある条件（地形、地質、周辺環境等）が混在しています。そのため個々の現場毎に「条件の内、何が一番の問題となるのか?」、「どうすればその条件をクリアすることが出来るのか?」を総合的に考え適切な方法を導き出して行くことが必要とされています。

現在、ダム構造物チームは土研別館（国総研本館）8階に位置しており、職員10名、交流研究員3名、非常勤職員3名の計16名から構成されています。



執務室状況

執務室は、写真の様な状況になっております。写真手前から奥の本棚までがダム構造物チームの部屋になっています。少し雑然としていますが、現在資料棚の整理を進めている為です。普段はもう少し整っている……はずです。

なんでも来いって感じです。もう一つは、宴会好きが多いことです。仕事の関係でなかなか全員がそろうことは少ないですが、それでも何かと理由を考えては、みんなで飲みに出たり、食事に行ったりしています。

チームのメンバーの特徴は、色々なスポーツをしている人が多いことです。野球、サッカー、テニス、バスケ、バドミントン、ゴルフ、スキー、サーフィン等々、

スポーツも宴会も他の研究室からの飛び入り参加も大歓迎なので、参加したいな~と思う人は是非当チームまで声をかけてください!! 選りすぐりの美男美女!?が優しく対応いたします。それでは、ダム構造物チームを今後ともよろしくお願いします。

お知らせ

人事異動

8月16日付

| 区分 | 氏名 | 旧役職 | 新役職 |
|----|-------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 出向 | 宮武 裕昭 | 技術推進本部 主任研究員（施工技術） | 道路局企画課付（8/16内閣府参事官補佐（地震防災情報システム担当）） |
| 転任 | 福島 眞司 | 道路局企画課付（8/16内閣府参事官補佐（地震防災情報システム担当）） | 基礎道路技術研究グループ 主任研究員（トンネル） |

9月1日付

| 区分 | 氏名 | 旧役職 | 新役職 |
|----|-------|---------------------------------|-----------------------|
| 出向 | 杉本 宏之 | 土砂管理研究グループ 研究員（地すべり） | 北陸地方整備局 企画部企画課 企画第一係長 |
| 転任 | 天野 邦彦 | 国土技術政策総合研究所 環境研究部 河川環境研究室 主任研究官 | 水循環研究グループ 主任研究員（河川生態） |

編集後記

私の地元、茨城県西北部の農耕地域には、“ぼうじぼ”という風習があります。これは、毎年、十五夜の日には子供達が地区の家々をまわり、「ぼうじぼっくり、山芋～」と歌いながら、稲わらを編んだ長さ60cm、直径10cmくらいの棒（藁鉄砲：ぼうじぼ）で各戸の庭の地面を叩いて、その年の収穫を祝う行事です。

今月21日は十五夜です。日本各地には様々な十五夜の風習があるようですが、職員の皆さんの地元ではどんな風習がありますか？

K. T